



『あの鐘をならすのはあなた』

作詞：阿久 悠

作曲：森田 公一

あなたに逢えてよかった
あなたには希望の匂いがする
つまづいて 傷ついて
泣き叫んでも
さわやかな希望の匂いがする
町は今眠りのなか
あの鐘を鳴らすのは あなた
人はみな 悩みのなか
あの鐘をならすのは あなた

あなたに逢えてよかった
愛し合う心が戻ってくる
やさしさや いたわりや
ふれあうことを
信じたい心が戻ってくる
(以下略)



「かけがえのない存在」

校長 蒲谷 猛

「どうせ、みんな、オレのこと、ダメな子って思ってるんでしょ。」
思うように適応できないなか、ついとってしまう粗暴な行動を教員に制止されたときに、身体も心ももがきながら大声で叫んだ一人の児童の言葉です。このときのシーンは、鮮明に覚えています。教育に携わる者として、生涯忘れることはありません。

その場にいた数人の教員は、みんな、この叫びに胸を締め付けられました。それまでの指導や、状況の改善のための働きかけが、成長の意欲や自信には結びつくことがなかったどころか、結果的に、ずっと人格や存在を否定されているように感じさせてしまっていたことに、一瞬にして気付かされたからです。

そりゃそうでしょう。毎日毎日、叱られ叱られ叱られ、追いかけられ、制止され、家に電話され、直接口にはしなくたって「ダメ・ダメ・ダメ・ダメ」って言われ続けているのだから。こんなこといくらやっても、事態が好転することは絶対にないのに。

大人だってそうでしょ。考えや行動を否定され続けていたら、前向きになんてなれたもんじゃない。「あなたは信用できない」なんて言われた日には立ち直れない。ましてや、未完成な子どもならばいかに。

「ダメな子」なんて、世の中に一人もいませんよね。それぞれ唯一無二の魅力をもつ、かけがいのない存在です。思うように達成できない事柄の実現や適切ではない言動の修正に向けて、今の状況を変えていく必要はありますが、その子がダメだったり悪かったりするわけでは決してないです。変えるのは、人柄ではなく、人との接点の中に表れている「行動」です。信用されてない、大切な存在だと思われていない、愛されていないと感じてしまったら、子どもは殻を閉ざすか、反発するかのどちらかです。「ありのままの存在」が受け止められてこそ、子どもは心を開き、前を向き、歩き続けることができます。

「医師は、人の『命』と向き合う。教師は、人の『生』と向き合う。」私がずっと大切にしている言葉です。いつからか忘れましたが、この言葉を書き出してみたら、ずっと、教師の使命として意識するようになりました。私たち教職員は、子どもの一生のうちの何年間かを一緒に過ごします。私たちと出会ってかわり合いがあって、心の中に記憶を残します。出会った一人ひとりの子どもが自分という存在が好きになり、自信をもって歩いていける「種」を心の中にたくさん貯めていくことが私たちの仕事です。余計なものを心の中に突っ込んではいけません。

原小学校の教職員は、校長として自画自賛ではありますが、自慢のチームです。一人ひとりかけがいのない存在です。本当に素敵な人の集まりです。でも、「人格」ではなく「行動」を客観的に見たら、まだ、発展途上です。今年度も至らない点もたくさんあったと思います。子どもを受けとめる感性や教育理念、何よりも授業力について、チーム担任制や研究・研修など、枠組みを工夫しながら磨き続けます。今年度も、本校の教育活動へのご支援ありがとうございました。来年度も、原小学校はさらに進化します。必ず。